

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばとあたま・体のリハ室2(タッチ)		
○保護者評価実施期間	2026年3月10日 ～ 2026年4月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	2026年3月10日 ～ 2026年4月10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年5月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフ 経験年数や専門性	専門性と活気ある療育を両立して安心感を提供できている。	継続して、スタッフが同じ目標に向かい、児童の特性や得意・不得意に合わせた対応を行っていく。
2	スタッフ配置	OJTの面は多いが、経験年数による支援の差を低くしている。事業所全体の療育～スキルをさらに高く維持していく	引き続き、ベテランや専門職がワンチームとなり、アセスメントや連絡を実践していく。
3	保護者の声も反映させる	子ども達の特性や得意・不得意を理解にしている。 ・日々の様子を把握し、こまめな助言ができる状態を維持できている。	児童の変化に対する気づきや情報の共有をさらにブラッシュアップしていきたい

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練等の情報共有不足	事業所内では定期的な避難訓練や安全対策を確実に実施しているものの、日々の療育報告やこまめな連絡（得意・不得意の共有）に追われ、防災への取り組みを保護者へ発信する機会が少なかった。	避難訓練実施後は、その様子や訓練内容（児童の避難の様子や配慮した点）を写真、または連絡を実施していく。取り組みの「見える化」を徹底する。
2	保護者参加	職員5名と児童のみで完結する訓練を行っていたため、災害発生時に「保護者などどのように連携し、引き渡すか」という実践的な備えや安心感を保護者側に持たせることができていなかった。	保護者の顔あわせなどを企画して、横のつながりも構築していきたい
3	防災アプローチと情報発信	未就学児と、放課後デイの就学児では災害時の歩行速度やリスク、パニックの度合いが異なる。 これら各特性に合わせた対策を保護者に十分、伝えられていなかった。	特性の強い児童には、個別的・具体的な防災時の配慮を保護者と共有していきたい。